

第51回 日本医学放射線学会秋季臨床大会

# 第29回 胸部放射線研究会

The 29th Annual Meeting of the Japanese Society of  
Thoracic Radiology



2014・KOBE

大会長：江原 茂（岩手医科大学放射線医学講座 教授）

当番世話人：佐々木 康夫（岩手県立中央病院放射線科）

日 時：平成27年10月2日（金）

会 場：アイーナ・いわて県民情報交流センター

# 第29回 胸部放射線研究会プログラム

## 開会の挨拶 (8:55~9:00)

---

当番世話人 佐々木康夫(岩手県立中央病院 放射線科)

## セッション1: 縦隔 (9:00~10:00)

---

座長: 高橋 康二(旭川医大)  
病理コメンテーター: 南條 博(秋田大学)

- 01 小児に発症した縦隔 PNET (Askin 腫瘍) の1例  
愛媛大学医学部 放射線医学 井手 香奈
- 02 縦隔に発生した交感神経由来の neuroectodermal tumor の1例  
富山県立中央病院 放射線診断科 池田 理栄
- 03 奇静脈由来と考えられた縦隔平滑筋肉腫の1例  
産業医科大学 放射線科学教室 藤崎 瑛隆
- 04 Primary Thymic Papillary Adenocarcinoma の1例  
信州大学医学部画像医学教室 轟 圭介
- 05 限局性硬化性(線維性)縦隔炎と考えられた1例  
旭川医科大学 放射線医学講座 佐々木智章
- 06 難治性乳糜胸を呈した後縦隔リンパ管囊状拡張の1例  
社会医療法人財団石心会 川崎幸病院 放射線 IVR 科 長谷聡一郎
- 07 [クイズ症例1] 胸壁腫瘍の1例  
日本赤十字社医療センター 放射線科 堀田 昌利  
指定ディスカッサー: 佐藤 晴佳(大分大学)

## セッション2: 肺腫瘍(炎症良性)・胸膜 (10:00~11:00)

---

座長: 小野 修一(弘前大学)  
病理コメンテーター: 黒瀬 顕(弘前大学)

- 08 緩徐に増大し特異な画像所見を呈した肺結節の1例  
聖路加国際病院 放射線科 半田淳比古
- 09 縦隔に隣接し高度な石灰化を示した若年女性の肺腫瘍の1例  
慶應義塾大学医学部 放射線診断科 堤 啓

- 10 器質化肺炎様の所見を呈した肺クリプトコッカス症の1例  
 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 放射線科 廣石 篤司
- 11 CA-19-9高値を呈したアスペルギルス症併発肺分画症の1例  
 静岡県立静岡がんセンター 画像診断科 遠藤 正浩
- 12 MRI T2強調像で無信号を呈した胸膜腫瘍の1例  
 神鋼記念病院 放射線診断科 山崎 晴菜
- 13 非典型的なCT所見を呈したサルコイドーシスの1例  
 滋賀医科大学 放射線科 上村 諒
- 14 [クイズ症例2] 非典型的な画像所見を呈した多発肺結節の1例  
 大分大学医学部 放射線医学講座 中山 朋子  
 指定ディスカッサー：負門 克典(がん研有明病院)

休憩 (11:00~11:15)

**セッション3: 肺腫瘍(悪性)・胸膜** (11:15~12:10)

座長：石川 浩志(新潟大学)  
 病理コメンテーター：南條 博(秋田大学)

- 15 心膜血管腫の1例  
 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 放射線診断治療学分野 袴田 裕人
- 16 CEA高値を示し肺癌胸壁浸潤と術前診断された悪性胸膜中皮腫の1例  
 四国がんセンター 放射線診断科 只信 美紀
- 17 5×2mm大の浸潤巣を有したCT上7mmのpure ground-glass noduleの1例  
 —放射線学的病理学的相関—  
 名古屋市立西部医療センター 放射線診療センター 島村 泰輝
- 18 肺原発平滑筋肉腫の1例  
 大阪大学大学院医学系研究科 放射線医学講座 上田 賢
- 19 非閉塞性無気肺像を呈した肺腺癌の1例  
 名古屋市立大学 放射線科 小澤 良之
- 20 [クイズ症例3] 血胸(血性胸水)で発症した肺腫瘍の1例  
 名古屋市立大学病院 放射線医学講座 何澤 信礼  
 指定ディスカッサー：渡會 文果(山形大学)

**セッション4: 肺腫瘍(悪性)・胸膜** (13:30~14:30)

---

座長: 森谷 浩史(大原綜合病院)

病理コメンテーター: 黒瀬 顕(弘前大学)

- 21 長期間経過を追跡し得たびまん性特発性肺神経内分泌細胞過形成(DIPNECH)の1例  
東京女子医科大学画像診断・核医学講座 石崎 海子
- 22 肺原発絨毛癌の1例  
大分大学医学部臨床医学系 放射線医学講座 佐藤 晴佳
- 23 肺に発生したIgG4産生性MALTリンパ腫の1例  
兵庫県立がんセンター 放射線診断科 平林 沙織
- 24 肺平滑筋腫の1例  
静岡県立静岡がんセンター 画像診断科 遠藤 正浩
- 25 Ciliated muconodular papillary tumor of the lung の1例  
筑波大学附属病院 放射線診断・IVR科 永田 力也
- 26 転移性肺腫瘍に対する定位放射線治療により肋骨壊死を来した1例  
熊本大学医学部附属病院 画像診断・治療科 東 美菜子
- 27 [クイズ症例4] 診断に苦慮した稀な肺門部腫瘍の1例  
長崎大学病院 放射線科 小池 玄文  
指定ディスカッサー: 宮沢 亮(聖路加国際病院)

**セッション5: 気管、気管支、血管** (14:30~15:30)

---

座長: 富永 循哉(東北大学)

病理コメンテーター: 南條 博(秋田大学)

- 28 成人で偶発的に見つかったPulmonary Vein Atresiaの1例  
京都大学 放射線診断科 岡田 信久
- 29 Systemic Artery to Pulmonary Artery Shunt の1例  
埼玉県立循環器・呼吸器病センター 放射線科 高田 直美
- 30 馬蹄型両側肺内分画症の1例  
八戸市立市民病院 放射線科(現 東京女子医科大学画像診断学・核医学講座)  
石崎 海子

- 31 左肺動脈無形成に合併した主要体肺側副動脈に動脈瘤を形成した1成人例  
琉球大学医学部附属病院 放射線科 伊良波朝敬
- 32 横隔膜内肺分画症の1例  
公益財団法人昭和会 今給黎総合病院 放射線科 仮屋 圭佑
- 33 フックワイヤーが手術中に肺に迷入した1例  
神奈川県立循環器呼吸器病センター 放射線科 岩澤 多恵
- 34 造影CT 肺動脈相で層流状の造影剤分布を認めた1例  
聖路加国際病院 放射線科 堀内 沙矢

休憩 (15:30~15:50)

---

要望演題 (15:50~16:30)

---

座長：山田 隆之(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)  
病理コメントーター：黒瀬 顕(弘前大学)

- 35 出生前に infantile lobar emphysema を予測し得た症例  
聖路加国際病院 放射線科 宮沢 亮
- 36 抗 IFN- $\gamma$ 抗体血症に伴う播種性 MAC 症の2例  
財団法人 天理よろづ相談所病院 放射線診断部門 野口峻二郎
- 37 舌癌術後で肺転移との鑑別に苦慮した肺ランゲルハンス細胞組織球症の1例  
岡山大学病院 放射線科 児島 克英
- 38 蜂窩肺に沿って進展した肺腺癌の1例  
順天堂大学医学部附属順天堂医院 放射線科 堀田 昭博

セッション6：びまん性肺疾患1 (16:30~17:20)

---

座長：石山 公一(秋田大学)  
病理コメントーター：南條 博(秋田大学)

- 39 経過を追えたリンパ腫様肉芽腫症の1例  
九州大学大学院 医学研究院 臨床放射線科学 山之内寅彦
- 40 多発薄壁空洞を呈した肺結核の1例  
東京労災病院 放射線科 福田 大記

- 41 腎動脈解離による腎梗塞が診断の契機となった、多彩な肺病変を伴う血管型 Ehlers-Danlos 症候群の 1 例  
富山県立中央病院 放射線診断科 阿保 齊
- 42 クローン病加療中に発症した多発血管炎性肉芽腫症の 1 例  
山口大学大学院医学系研究科 放射線医学分野 小林 大河
- 43 肺ノカルジア症の 1 例  
大分大学医学部附属病院 放射線科 小野 麻美
- 44 非典型像を呈した肺結核の 1 例  
香川大学医学部 放射線医学講座 石村茉莉子

## セッション 7:びまん性肺疾患 2 (17:20~18:10)

座長：小野 修一(弘前大学)  
病理コメンテーター：黒瀬 顕(弘前大学)

- 45 検診発見され経過観察し得たシェーグレン症候群合併肺病変の 1 例  
東京女子医科大学病院 画像診断・核医学科 遠藤 健二
- 46 多発肺転移で発見された心臓原発血管肉腫の 1 例  
恩賜財団 済生会滋賀県病院 放射線科 辻 悠佑
- 47 血胸で発症した縦隔原発絨毛癌の 1 例  
川崎医科大学附属川崎病院 放射線科 加藤 勝也
- 48 エベロリムス溶出性冠動脈ステント挿入後に生じた薬剤性間質性肺炎の 2 例  
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 放射線科 松下彰一郎
- 49 骨髄移植後に閉塞性細気管支炎と肺胞蛋白症を発症し特異な画像所見と経過を呈した 1 例  
東北大学病院 放射線診断科 佐藤 嘉尚
- 50 24 年前間質性肺炎として経過観察され、経過中生検で BALT lymphoma と診断された CT で長期間経過観察された 1 例  
昭和大学医学部 放射線医学教室 西城 誠

## 閉会の挨拶 (18:10~18:15)

代表幹事 酒井 文和(埼玉医科大学国際医療センター 放射線科)

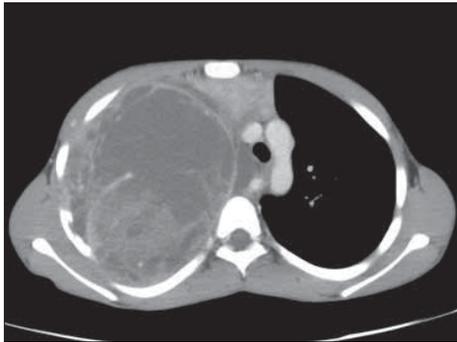
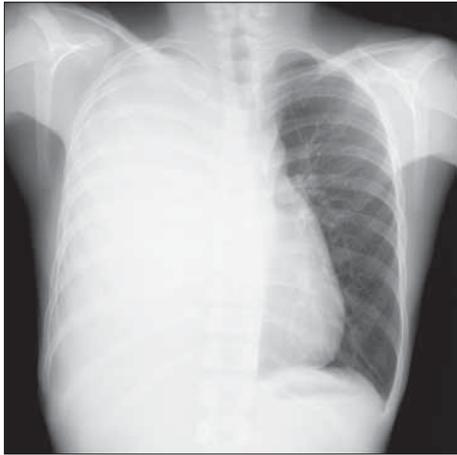
# 抄 録

# 01

## 小児に発症した縦隔 PNET (Askin 腫瘍) の 1 例

1) 愛媛大学医学部 放射線医学、2) 同 小児科、3) 同 呼吸器外科

○井手 香奈<sup>1)</sup>、田内 久道<sup>2)</sup>、岡崎 幹生<sup>3)</sup>、重松 久之<sup>3)</sup>、佐野 由文<sup>3)</sup>、  
望月 輝一<sup>1)</sup>



症例は10歳代男性。2週間前より咳嗽あり、気分不良や嘔気が出現。微熱が出現したため近医受診し、胸部単純X線写真およびCTにて右胸腔内に巨大腫瘍を認め、精査加療目的にて当院小児科に紹介入院となった。腫瘍マーカーの有意な上昇は認められなかった。

入院時胸部CTでは中縦隔右側から右胸腔に突出する巨大腫瘍を認めた。内部は不均一な造影効果を有し、一部石灰化も認められた。肺実質は著明に圧排され完全無気肺となっていた。腫瘍の右第5肋骨への浸潤も疑われた。FDG PET/CTにて腫瘍の充実部に高度FDG集積(SUVmax=11.1)を認めた。

腫瘍の増大による心臓および健側肺の圧排が進行したため、腫瘍摘出術および右肺全摘術を施行した。腫瘍は裸核状の好塩基性の核を有する小型円形細胞が密に増殖する消炎経細胞腫瘍で、免疫染色ではVimentinのみが陽性であった。遺伝子解析(RT-PCR法)にEWSR1-ERG融合遺伝子が陽性であり、PNETと確定診断された。その後化学療法が施行され、術後2年の経過にて再発は認められていない。

若年発症の縦隔腫瘍にてPNETは稀な疾患であり、若干の文献的考察を加え報告する。

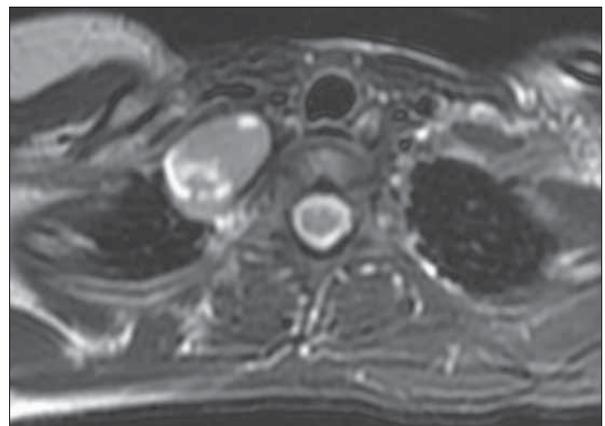
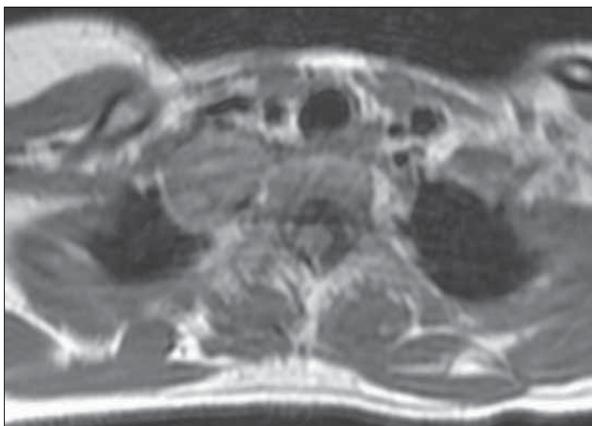
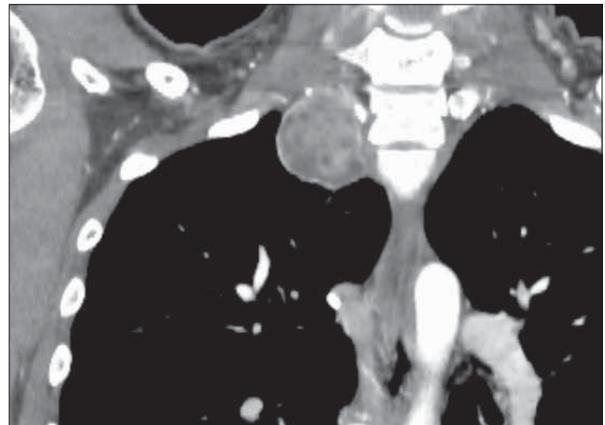
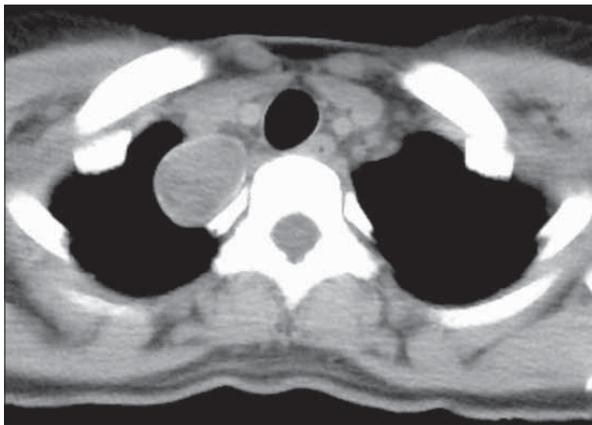
# 02

## 縦隔に発生した交感神経由来の neuroectodermal tumor の 1 例

1) 富山県立中央病院 放射線診断科、2) 同 呼吸器外科、3) 同 病理診断科

○池田 理栄<sup>1)</sup>、阿保 齊<sup>1)</sup>、草開 公帆<sup>1)</sup>、齊藤 順子<sup>1)</sup>、望月 健太郎<sup>1)</sup>、  
出町 洋<sup>1)</sup>、新納 英樹<sup>2)</sup>、内山 明央<sup>3)</sup>、石澤 伸<sup>3)</sup>

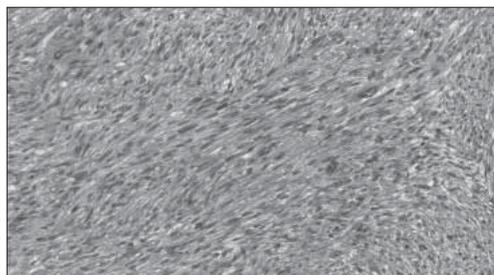
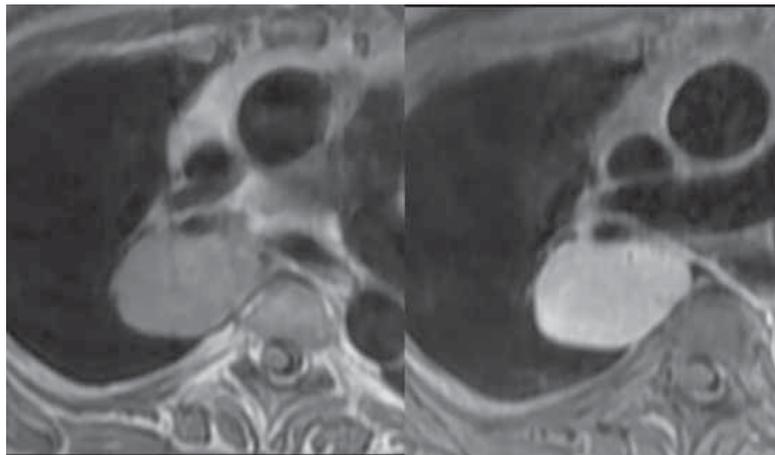
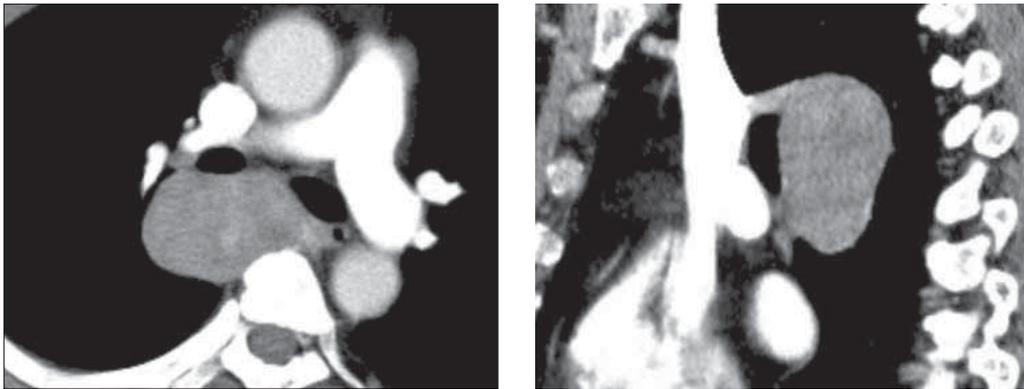
症例は21歳女性。検診の胸部単純X線写真で異常陰影を指摘され当院呼吸器外科受診。受診時の自覚症状は右頸部の発汗低下。腫瘍マーカーは陰性。CT：右上縦隔に最大径34mm大の類球形の骨格筋と比較してやや低吸収な腫瘤を認める。境界明瞭、辺縁整、辺縁部に淡い石灰化を伴う。第1、2肋骨と接するが浸食像は認めない。MRI：T1強調画像では骨格筋と比して軽度高信号。脂肪抑制併用T2強調画像では軽度高信号の部分と複数の小嚢胞状の高信号部分より成るが、前者は造影早期相で比較的良く増強され、後期相でも持続する。神経原性腫瘍や副甲状腺腫瘍が疑われ、経過中に発汗低下の症状進行もあり胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術を施行。術中所見で腫瘍は椎体右側の交感神経と連続していた。肉眼病理所見では40×24×16mmの黄白色調の軟らかい腫瘍で、出血と脱落・嚢胞化を伴う。組織学的に小型でN/C比が高く類円形～卵円形核を有する腫瘍細胞が、索状～リボン状、シート状に増殖する。Schwann細胞成分はあまり目立たず、S-100は弱陽性。免疫組織化学的にNSE以外の神経内分泌系マーカーの発現は乏しく、他施設の病理医にコンサルトした結果もふまえ、最終的には交感神経由来の neuroectodermal tumor と診断した。悪性を示唆する像には乏しいものの評価の難しい腫瘍であり、現在は慎重に経過観察されている。極めてまれな疾患であり、画像所見と文献学的考察を加えて今回報告する。



1)産業医科大学 放射線科学教室、2)同 第二外科、3)同 第二病理

○藤崎 瑛隆<sup>1)</sup>、青木 隆敏<sup>1)</sup>、中原 惣太<sup>1)</sup>、藤井 正美<sup>1)</sup>、小林 道子<sup>1)</sup>、  
千原 ちひろ<sup>1)</sup>、林田 佳子<sup>1)</sup>、興梠 征典<sup>1)</sup>、田中 文啓<sup>2)</sup>、島尻 正平<sup>3)</sup>

症例は40代女性。職場健診の胸部単純X線写真にて異常を指摘された。造影CTにて右中縦隔から後縦隔に5cm大の腫瘤を認め、奇静脈の上下大静脈流入部が上方に圧排されていた。腫瘤はMRI T1強調像で筋よりやや高信号を示し、造影にてやや不均一に強く増強された。T2強調像では腫瘤内部に壊死や嚢胞変性を示唆する小高信号域を認めた。1年前の胸部単純X線写真では病変を指摘できず、急速に増大する間葉系悪性腫瘍を考へて腫瘍切除術を施行した。病理学的に腫瘍は異型性に富む平滑筋細胞の増生から成り、腫瘍と奇静脈壁筋層の連続性が認められ、奇静脈から壁外性に発育した縦隔平滑筋肉腫と診断した。奇静脈発生の縦隔平滑筋肉腫は極めてまれで、我々の調べた限り報告例は3例である。画像所見を中心に文献的考察を加えて報告する。



## 骨髓移植後に閉塞性細気管支炎と肺胞蛋白症を発症し 特異な画像所見と経過を呈した1例

1) 東北大学病院 放射線診断科、2) 同 病理部、3) 同 小児科、4) 同 呼吸器外科

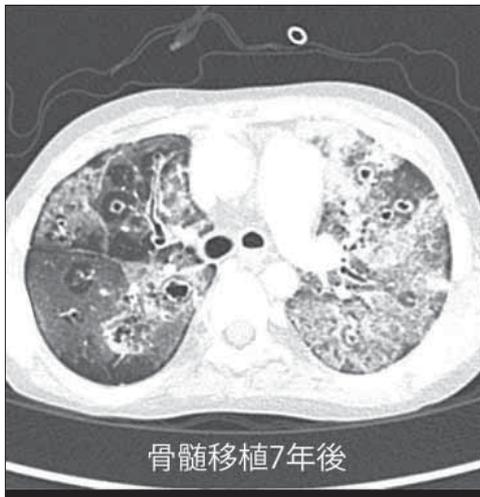
○佐藤 嘉尚<sup>1)</sup>、富永 循哉<sup>1)</sup>、齊藤 涼子<sup>2)</sup>、笹原 洋二<sup>3)</sup>、岡田 克典<sup>4)</sup>、高瀬 圭<sup>1)</sup>



骨髓移植1年後

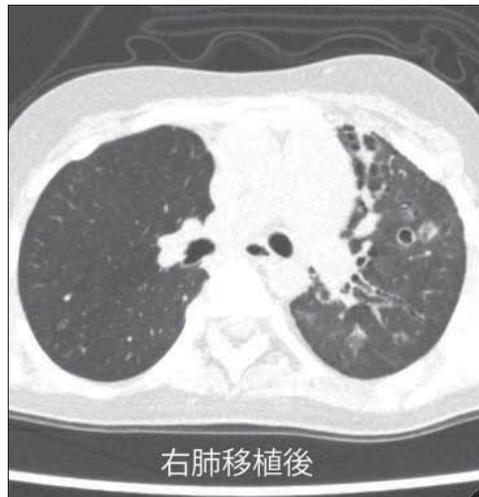


骨髓移植4年後



骨髓移植7年後

症例は10代女児。先天性赤芽球癆の治療として7歳時に母親から骨髓移植を受けた。移植3ヶ月後から咳嗽、呼吸困難が出現した。臨床的に閉塞性細気管支炎(BO)が疑われた。当初CTでは特記すべき異常は指摘できなかったが、移植後7ヶ月から間質性肺気腫、縦隔気腫、皮下気腫が出現し、1年後から嚢胞状気管支拡張が顕在化した。BOに対してミコフェノール酸モフェチルやステロイドによる免疫抑制療法が施行されたが呼吸不全は進行し、骨髓移植から3年後に全肺に広範なすりガラス影が出現した。一方で牽引性気管支拡張像や網状影などの肺線維化を疑う所見は無かった。14歳時に母親をドナーとする右片肺生体肺移植が行われた。病理組織にてBOに肺胞蛋白症が合併していることが判明した。自己免疫性肺胞蛋白症を疑い、抗GM-CSF抗体が測定されたが陰性であった。本症例は骨髓移植後に同一ドナーから右肺移植が施行された。移植肺への拒絶反応は生じず、左固有肺は呼吸機能にほとんど寄与しないため、免疫抑制剤は減量された。左固有肺の気管支拡張は残存するが肺胞蛋白症によると考えられるすりガラス影はほぼ消失し、呼吸機能も改善した。本症例は骨髓移植、あるいは免疫抑制剤による続発性肺胞蛋白症と考えられる。特異な臨床経過と画像を呈した症例であり、画像と病理像を対比し、文献的考察を交えて報告する。



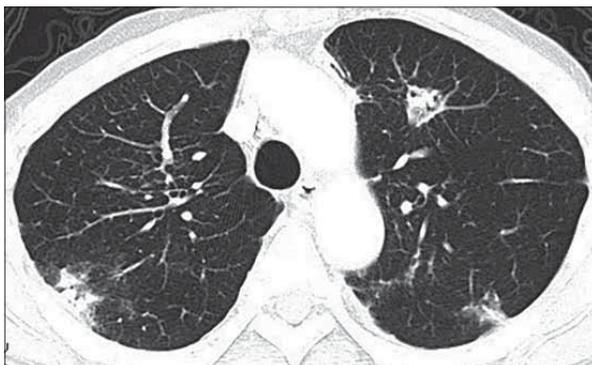
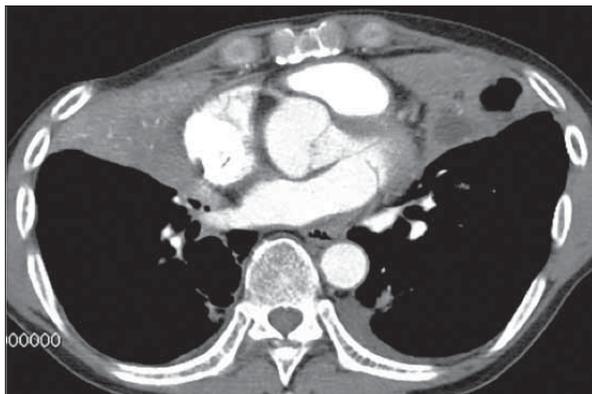
右肺移植後

## 24年前間質性肺炎として経過観察され、経過中生検で BALT lymphoma と診断された CT で 長期間経過観察された 1 例

1) 昭和大学医学部 放射線医学教室、2) 昭和大学江東豊洲病院 放射線診断科、  
3) 昭和大学 血液内科、4) 同 呼吸器・アレルギー内科、5) 同 臨床病理診断科

○西城 誠<sup>1)</sup>、扇谷 芳光<sup>2)</sup>、廣瀬 正典<sup>1)</sup>、石塚 久美子<sup>1)</sup>、宗近 次朗<sup>1)</sup>、  
斎藤 文護<sup>3)</sup>、岸野 康成<sup>4)</sup>、広田 由子<sup>5)</sup>、瀧本 雅文<sup>5)</sup>、後閑 武彦<sup>1)</sup>

症例は1989年に会社検診の単純写真で両肺野にびまん性陰影を指摘された男性。呼吸器科にて間質性肺炎の診断。1994年8月に開胸肺生検施行され、pseudolymphoma, LFA(+), T細胞・B細胞マーカー(+), 肺胞構造消失の所見あり(カルテ記載のみ)。PSL・免疫抑制剤による治療が開始された。2012年4月に呼吸困難とSIL2-R2050IU/mlの上昇あり、CTで右中葉、左舌区に無気肺様扇状のconsolidation、両側上下葉の多発consolidation、多発結節影・粒状影および若干の小葉間隔壁肥厚あり。右下葉中枢則に腫瘤様コンソリデーションを認めた。上葉優位に若干のスリガラス濃度上昇と軽度縦隔リンパ節腫大と左少量胸水あり。気管支鏡下肺生検施行し、CGA(-), SY(-), CD56(-), LCA(+), L26(+), bcl-2(+), CD3(-), CD5(-), CD10(-), CD30(-), cyclinD1(-)でBALT lymphomaが最も考えられた。その後もSIL2-Rの上昇と臨床症状、肺野陰影増悪あり、2013年4月血液内科で骨髓生検施行し、low grade B cell lymphomaと診断された。CHOP療法施行され、肺野陰影は改善傾向で、経過良好である。間質性肺炎は長期間の経過でBALT lymphomaに転化する報告が散見され画像上の経過を踏まえ報告する。



# 第21回中国四国胸部画像カンファレンス (胸部放射線研究会中国四国支部)

日 時：平成26年10月4日(土) 12:00～16:45

場 所：サンポート高松 61会議室  
高松市サンポート2-1 高松シンボルタワー ホール棟6階

当 番 顧 問：香川大学医学部放射線医学講座 西山 佳宏  
当 番 世 話 人：香川大学医学部放射線医学講座 室田真希子  
事 務 局：香川県立保健医療大学 佐藤 功

## プログラム

病理コメンテーター：高松平和病院病理科 佐藤 明  
座 長：鳥取大学 杉浦 公彦

### 出題者

### 解答者

---

1 香川大学 田中 賢一 鳥取大学 松村 武史  
多中心性キャッスルマン病の1例

---

2 川崎医科大学 谷本 大吾 徳島大学 宇山 直人  
多発結節で発症した OP パターンを呈した間質性肺炎の1例

---

3 香川大学 中村 恩 岡山大学 乗金精一郎  
若年成人に発症し、多発肺結節影を呈した  
Nodular Sclerosing Classical Hodgikin リンパ腫の1例

---

病理コメンテーター：香川大学医学部病理診断科・病理部 羽場 礼次  
座 長：香川大学 室田真希子

---

4 愛媛大学 井手 香奈 香川大学 三田村克哉  
縦隔上部に発生した平滑筋肉腫の1例

---

5 高知大学 安岡 美貴 島根大学 森 博史  
脂肪壊死を来たした胸腔内脂肪腫の1例

---

6 山口大学 神谷 正喜 広島鉄道病院 西亀 正代  
直腸癌術後経過観察中に出現した樹枝状影を呈した肺小細胞癌の1例

---

## 第29回 胸部放射線研究会 プログラム・抄録集

---

発行：胸部放射線研究会

胸部放射線研究会事務局：

〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1  
埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科内  
TEL：042-984-4520 FAX：042-984-4520  
E-mail：kyobuho@saitama-med.ac.jp

---

出版： 株式会社セカンド  
学会サポート <http://www.secand.jp/>

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

